

# 秋高同窓会だより

題字は辻兵吉会長

発行者 秋田県立秋田高等学校同窓会  
秋田市手形字中台1番地  
TEL 018(832)9553  
E-mail aki-doso@cna.ne.jp  
印刷 武内印刷株式会社



(2面) ポラリス 大友英一  
(6面) 恩師訪問 小林清人先生  
(12面) 納涼随想 藤原優太郎  
(13面) 短歌 寺田光和  
(13面) 俳句 阿部菁女



理事會  
同窓会入会式  
つどい  
部活動の記録

秋田高校運動会「つな引き」

「松原遠く消ゆるところ...」。先日、法事の為、久し振りに下浜に帰って、我が目を疑った。文部省唱歌「海」の一曲そのもののあの美しい松林が、立ち枯れて、墓標の如く林立している。その異様にして索漠たる風景。犯人は松喰虫とのこと。一体全体、行政は何をしているのか。「怠慢」の二字が頭をよぎった。

極く最近、ある病院の医師が、家族の要請で患者のレスビレーターを外したら、書類送検されたことが、或る新聞の第一面トップ記事に載っていた。言わないことではない!!

## ポラリス Polaris

十数年前、私は、長寿科学振興財団の「老年者のQOL及びターミナルケアに関する研究」の班長として、老年医学の専門家五名と共に、三年に亘り、この研究に従事した。その中の項目の一つの「自分自身・配偶者・両親が老年になって不治の病に罹り、植物状態になった時、延命処置を望むか」に就いてのアンケート調査を、可能な限り広い年齢層と領域の人々を対象に、実施した。「イエス」の答えは、自分自身に就いては

九%、配偶者・両親でも、二〇%台という低さであった。此の成績を基に、私は、此の問題は、国民全員の課題として、十年程時間をかけて討論、コンセンサスを得る必要を痛感し、その旨、答申、提言した。具体的には、健康保険証に、延命処置希望の有無の欄を設け、50歳になったら記入する。その上で延命処置の最終決定には、地域毎に設けた第三者機関が関わり、全員一

# 「松林が消えた」



大友 英 一 (昭和20卒)  
社会福祉法人浴風会病院院長  
財団法人ほけ予防協会会長

然し、終末期の生々しい医療現場に長年携わって来た者としては、回復の見込みのない患者への延命処置の為に、膨大に膨れ上がる医療費の問題や、患者に機械的に水分を注入するだけの繰返しに、張合をなくしてやめて行く看護師の問題等、厳しい現実から目をそむけることは不可能なのであって、それ故の切実な提言なのである。勿論、これら一連の提言は、日本老年医学

致、或いは多数決で決める。延命処置決定後の費用は、全額自己負担とする。延命処置停止と決定してからは、レスビレーターを止める、点滴の針を抜かず、徐々に酸素を少なくするメニュー、徐々に栄養分を減らすメニュー等を専門家が予め作っておき、これを使用する。愛する肉親には、譬え、植物状態になっても、此の世で息を置いて欲しいと願うのは、人間本来の感情である。

会総会の特別講演に於いても、切々と訴え、その内容は老年医学会雑誌にも掲載されている。そして、その他の医学雑誌にも、機会のある毎に、繰返し主張して来た。然るに、その反響は如何? 数年前、浴風会を視察に来た厚生労働省の老健局長と昼食を共にした。老健局長と言えば、老年医療行政の最高責任者である。私は老年医療の現場従事者が、如何に、一方で空しい思いを抱きつつ、血の滲む努力をしているかを知

って貰う絶好の機会と捉え、次の二つの話題を提供した。(その一)「老年者のQOL及びターミナルケア」の私達の研究結果。(その二)「認知症発病を一年遅らせれば、医療費などが年二千八百億、二年遅らせれば、その倍節約出来る。故に予防に力を入れるべき」(或る国立機関の二年前の研究結果)。ところが、驚くなかれ!!彼は二つ共、全く知らなかったのである。少なくとも視察前の一夜漬けでもよいから、部下に資料を揃えさせ、頭に入れて臨むのが、その立場にある者の最低限の良心ではなからうか。

役人の不勉強、無責任の唾然、茫然ぶりはこれにとどまらない。「審議会」と言う名の行政側の隠れ蓑に群がる肩書き欲しさの御用学者とのナアナアのもたれ合いで、腐敗は、さらに度を深め、挙げ句、公立法人への天下りを繰返す毎に、庶民から絞り取った血税を、巨額の退職金として、自分達の懐に吸い上げる。斯くして、民は細る一方、官は太る一方。墓場の如き故郷の無残な松林の姿は、民の嘆きと怒りの象徴そのものに思えてならなかった。

## 天上天下

大江健三郎が東大のフランス文学科に進んだのは、主任教授の渡辺一夫に憧れたことが最大の理由であった。その渡辺博士が昭和五十年に亡くなったとき大江は大きな衝撃を受けたが、翌年、メキシコに向かう飛行機の中で、「陽に輝く雲と海面を眺めて、この自然のうちに、原子となつた渡辺先生の肉体が遍在する」と考えた。それは、深いところから自分が治癒される大きい解放感の経験であった」と述懐している。▼最近、新井満の訳詩・作曲になる「千の風になつて」がいろいろなところで歌われている。一番の歌詞だけ紹介してみたい。「私のお墓の前で泣かないでください/そこに私はいません/眠ってなんかいません/千の風に/千の風になつて/あの大きな空を/吹きわたっています」▼一読して、大江の感慨とよく似ていることに気づかせられるが、この歌の原詩はもともとアメリカの先住民のものだという。キリスト教や仏教とも異なる世界観で興味を惹かれ、この歌行にしみじみと浸る日本人の死生観にもおのずからにして思いが及ぶ次第である。

# 総会への出席者募る

## 84人参加、第1回理事会

平成19年度第1回理事会は、7月2日(月)午後6時から、秋田市のキャッスルホテルにおいて84名が出席して開催された。同窓会の今後のあり方や、8月19日(日)に予定されている総会に向けて討議された。

亡くなられた方に黙祷を捧げ会は始まった。次いで、辻兵吉会長から「入学式に出席した。少子化で生徒数が少なかったが、しっかりしていると感じた。同窓会は会員の浄財を戴き順調に進んでいる。来月の総会では、多方面で活躍している先輩のいい話を聞けるように努めたい。」旨の挨拶があった。

次いで出張中の柴田義弘校長に代わり、北條範雄教頭から新任の安藤巳智子教頭と鶴田宣夫主幹(兼)事務長の紹介と挨拶があった。概略は「現在全教職員七十九名、生徒は学年八クラス、全校九百五十一名、女子は四割、三百

平成19年度の総会を左記により開催しますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいますようお願い致します。

日時 平成19年8月19日(日) 午後2時  
場所 シャインプラザ平安閣秋田

### 「スイカ」の三木氏講演

19年度総会 8月19日、平安閣で

記念講演 三木 彬 生氏  
(昭和34年卒・神奈川臨海鉄道常務取締役)  
演題 「ICカード切符開発の裏ばなし」  
懇親会 午後4時30分(会費5000円)  
※一般会員で出席ご希望の方は、お手数でも同窓会事務局(☎018-832-9553)にご一報下さるようお願い致します。

六十四名……現在の問題は大体育館が耐震レベル4で大地震があると崩壊の恐れありと診断されたこと。対策に頭を悩ましている。」なお、大学入試、部活動については別紙面を参照されたい。

考えていきたい。総会の出席者を増やしたい。当番年次、女性への呼びかけをまずは強くしたい。若年次の会の組織化と充実を図る。若年次の会はよいきっかけになっていくので、卒業十五周年にも呼びかけ、サポートしていきたい。本年度総会の講師はスイカ開発に携わった三木彬生氏を第一に考えている。

◎企画委員会及び当番年次会議 (佐々木博良委員長)

本年度当番年次は3と4のつく年次、昭33〜平元。同窓会活動の活性化について

◎財政委員会(速水洋子委員長)

十八年度会費納入の目標額だった千二百万円をクリアできよかった。生徒数減で入会費が減となっている。今後会費の目標をクリア出来なければ行事等長期的展望が必要だ。「だより」を入札にし、三年契約で武内印刷に依頼した。

### 常置委員会異動

#### 企画委員会

(退任) 委員 有明 雅弘(学)  
(転勤のため)

(就任) 委員 伊藤 敏郎(学)

#### 財政委員会

(退任) 委員 関 一(学)  
(転勤のため)

(就任) 委員 三浦 義則(学)

委員 高垣 一成(学)

委員 桑原 透(昭58卒)

▼広報委員会  
(就任) 武内 伸文(平2)



#### 第一回役員会

秋田高等学校同窓会平成十九年度第一回役員会は六月四日(月)、シャインプラザ平安閣で行われた。

出席者は辻兵吉会長以下役員十四名(欠席三名)、事務局二名の計十六名。

会長、校長挨拶に引き続き、

会務事業報告、常置委員会(企画委員会、財政委員会、名簿委員会、広報委員会)の報告があり、次いで議事が審議された。最初に平成十八年度収支決算。続いて平成十九年度事業計画案と収支予算案について、質問、審議の結果、原案どおり承認された。

平成十九年度

# 進路状況報告

進路指導主事 庄司 強

今年三月の卒業生総数は315名。8クラス体制となつて二年目の学年でした。合格率74.0%、進学率71.8%と合格率、進学率とも昨年より少しダウンし、ほぼ一昨年と同じ結果になりました。また、国立大医学部医学科の合格者は14名(昨比比+5)と大幅に増え、東北大合格者も26名(昨比比+5)と着実に増加しました。

## 医学科合格 大幅に増加

出願者は延べ数で、国立大369名(昨比比+7)、私立大423名(昨比比+14)。国立大合格者は総数159名(昨比比-6)で、内訳としては前期84名、後期49名、推薦・AO26名でした。私立合格者延数は166名(-40)で、一般・センター利用143、推薦・AO24名でした。うち、進学者は国立大149名(-9)、私立大70名(+3)でした。

現役生の主な大学の合格者数は別表のとおりになります。北海道が12(昨比比-1)で、平成元年以降三番目に多く、東北26(+5)、秋田28(-1)、千葉13(+2)、東京3(-5)、東京工業2(+2)、東京学芸10(+1)、新潟10(+2)とな

### (1) 今春卒業生の入試概況

### (2) 過年度卒業生の概況

## 努力の継続 により合格

東北9、東京1、一橋1、京都2、国立立医学部医学科7(秋田5、福島県立医科1、九州1)、私立医学部医学科7という状況です。現役時にはあと一歩で不合格だった人も、意欲を持って努力を継続

りました。最近志望者の多い医学部医学科合格者数は16(+6)であり、内訳は秋田の地域枠推薦1、一般推薦10、東北、新潟、群馬、獨協医科、北里が各1でした。また、私立大学では、慶應義塾4(+1)、中央11(-8)、津田塾10(+6)、明治13(-6)、早稲田12(+0)、立命館8(+6)という状況になっております。

### (3) 平成19年度入試の特徴

## 全国分散の 傾向変らず

特徴として四点挙げられます。  
 ①新課程初年度であった昨年のセンター試験は大幅に易化したのが、今年は国語・数学I・A・数学II B・物理I・地理B・現社で大きく平均点が下がった。大学入試センター発表では昨年度で約7〜9点下がっている。本校の総合得点率は73.4%で昨年(79.2%)より総合得点(900点満点)で約50点ダウンした。総合得点、分布とも平成16年とほぼ同じ状況

である。②本校は東北の他県の進学校に比べ、以前から志望が全国に分散する傾向が強かったが、今春入試でも北は北海道から南は九州に至るまで志望の幅広い志望であった。  
 ③現役生の出願が増えた大学は、北海道27名(+6)、東北68名(+21)、東京25名(+9)、横浜国立15名(+7)、大阪4名(+3)、大阪外語4名(+4)、国際教養4名(+1)などであった。逆に、出願者が大幅に減ったのは秋田48(-16)、埼玉7(-6)、東京学芸12(-5)、金沢0名(-7)、信州0(-4)などであった。一橋・東京外語は残念ながら現役の合格者がいなかった。  
 ④私立大指定校推薦の志望者が増え、19名が合格した。特に、早稲田が学部改組で募集人数が増え、8名が合格した。

### 平成19年度 年会費納入のお願い

同窓会年会費制が始まって12年目を迎えました。会員皆様のご協力に感謝いたします。しかしこの1〜2年若干納入者減となっております。19年度分納入は7月発行の「秋高同窓会だより」に同封した「払込取扱票」によって納入していただくこととなりますが、下記の通りお願い申し上げます。

1. 年会費 2,000円  
原則として単年度分 郵便振り込み
2. 高校卒業後4年間は免除されます  
(平成16年以降)

口座番号 02500-6-54147

加入者名 秋田県立秋田高等学校同窓会  
会長 辻 兵 吉

### 会費納入状況

(平成9~18年度)

年 度	金 額	年 度	金 額
平成9年度	10,827,000円	平成14年度	12,874,000円
平成10年度	12,856,000円	平成15年度	12,744,000円
平成11年度	14,727,000円	平成16年度	12,710,000円
平成12年度	14,126,000円	平成17年度	12,674,000円
平成13年度	14,220,000円	平成18年度	12,434,000円

# DUSKIN®

喜びのタネをまこう

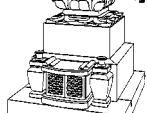
〒010-0965 秋田市八橋新川向11-6  
**清三屋商事株式会社**  
 代表取締役会長 長谷川善四郎  
 (昭和33年卒)  
 TEL 018-862-3334  
 FAX 018-866-2550

## 協和石油株式会社

代表取締役社長 荻原正夫  
 (昭和33年卒)  
 〒010-0921 秋田市大町一丁目3-37  
 TEL (018) 865-2261  
 FAX (018) 865-1985

創業35周年

### お墓 専門店



代表取締役 清瀬 和敏 (昭和33年度卒)

**(株)秋田石材**  
 0120-80-1441 <http://www.akitastone.com/>  
秋田県秋田市大町1-1 TEL.018-866-9292

### 秋高頑張れ！

甲子園、花園が待っている

秋高三会関西 (昭和33年卒)  
 阿部 源隆 鯨岡 正  
 荒谷 義史 酒出 弘二  
 石山 元一 信太 三吉  
 宇佐見一雄 徳原 清司  
 勝平 良治 福田 隆  
 金内 信 三浦 伸夫  
 神成 武彦

# 大学合格者数一覧表

(おもな大学)

大学名	現役	過卒	計	大学名	現役	過卒	計
北海道	12	2	14	金沢		1	1
弘前	2		2	京都		2	2
岩手	2	1	3	奈良女子	1	1	2
東北	26	9	35	大阪	2		2
宮城教育	2		2	九州		1	1
秋田(教)	11		11	国際教養	3		3
秋田(医医)	11	5	16	高崎経済	1	1	2
秋田(医保)	5		5	首都大学東京	2		2
秋田(工)	1		1	国公立計	159	45	204
山形	2		2	東北薬科	6	4	10
福島	1	1	2	青山学院	8	8	16
茨城	1		1	北里	2	3	5
筑波	6	3	9	慶應義塾	4	6	10
埼玉	2	3	5	上智	3	1	4
千葉	13	4	17	中央	11	9	20
お茶の水	3	1	4	東京農業	3	3	6
東京	3	1	4	東京理科	6	26	32
東京学芸	10		10	日本	3	5	8
東京工業	2		2	法政	8	7	15
東京農工	2		2	明治	13	13	26
一橋		1	1	立教	7	11	18
横浜国立	5	1	6	早稲田	12	11	23
新潟	10	1	11	立田命館	8	6	14
富山	2		2	私立計	166	151	317

### (4) 平成20年度入試について

## 入りたい大学 目指し頑張れ

難関大を中心に、後期試験を取りやめる大学・学部が増え、推薦入試やAO入試が増加するなど、入試方法が一層多様化・煩雑化する中で、本校生の「入りたい大学」は今後も易化しそうにない状況といえます。よりきめ細かい指導をし、文武両道を実践し、「入れる大学」でなく「入りたい大学」を目指して生徒・職員とも頑張りたいと考えております。

21世紀の各界で卒業生が大きく羽ばたくことを願ってやみません。今後も同窓会諸氏の力を強いご支援・ご協力を期待いたしております。

### 人事異動

平成18年度末

▽転出・退職(転出先等)

教頭 古内 一樹  
(大館国際情報学院中学校 校長、兼同高校副校長)

主幹(兼)事務長 武田 誠司  
(生涯学習センター副所長 学校指導員 物部 長仁)

教諭 半田 幸子 (退職)  
有明 雅弘 (西目高校教頭)  
皆方 紀夫 (秋田中央高校)  
関 一 (西仙北高校)  
伊藤 浩次 (札幌西高校)  
佐藤 進 (御所野学院高校)  
森元 弘毅 (盛岡第二高校)  
嵯峨 成一 (秋田工業高校)  
大原かおり (秋田中央高校)  
佐藤 博之 (明德館高校)  
高橋 恵 (大館桂高校)

非常勤講師

▽転入(転入元)

教頭 安藤 巳智子 (大曲高校教頭)

主幹(兼)事務長 鶴田 宣夫 (秋田南高校事務長)

教諭 森合 秀夫 (秋田南高校)  
倉田 寛行 (秋田北高校)  
立花 秀子 (金足農業高校)  
高倉 亘 (北海道千歳北陽高校)  
牛丸 靖浩 (本荘高校)  
佐藤裕紀子 (由利高校)  
高垣 一成 (由利高校)  
菅原 優子 (採) (採) (堀内 大介 (秋田北高校))  
池田 雅之 (採) (松田 光博 (秋田商業高校))  
大貫 葉子 (秋田商業高校)  
武藤 育子 (秋田西高校)

非常勤講師

事務補助 五十嵐 桂子 (退職) (退職・秋田魁新報社)

非常勤講師 石塚 健悟 (退職)

## 恩師訪問

## 小林清人先生



母校で勤務された方の近況をお伝えする「恩師訪問」。第八回目の今回は音楽一筋に多くの生徒を育てられた小林清人先生。六月六日(水)、同窓会館、羽城館にお越し頂き、元同僚の広報委員高島清子がお話をお伺いした。

最初に秋田高校に勤務された頃のことをお聞きしたいのですが

勤務したのは昭和六十二年四月から平成九年三月までの十年間で秋田高校で退職でした。学校の雰囲気は明るく、全体に活気があって良い印象で勤めることが出来ました。生徒は意欲的でしっかりしており集中力は素晴らしかった。また、感性の豊かな生徒が多かったですね。ただ、意外だったのは男子生徒が思っていたよりもおとなしかったことです。私は秋高の前に秋田北高校に十七年も勤務して女子高生のエネルギーとパワーを充分経験していましたので、そこからの想像で、秋高は元々男子高校だしもつとパンカラだろうと予測していたのです。

秋高での思い出をお聞かせ下さい。

秋高祭は印象深かったですね。みんなよく動き、自分たちで企画し、実行し、その自主的な活躍振りは目を見張るものがありました。特に思い出深いのは、平成三、四年頃だったでしょうか。芸能発表で「ハレルヤコーラス」を合唱することになったのですが、合唱部だけでは男声が足りず、どうしたものかと思案し、も



のは試しと柔道部の部員に声を掛けてみました。当時の柔道部顧問の船木賢咲先生(現矢島高校長)も快く引き受けてくださり、また、柔道部の生徒たちは朝練習があつて朝早いのはちつとも苦でないです。一生懸命朝に練習して「ハレルヤコーラス」を見事に合唱し拍手喝采でした。船木先生の話では卒業後の柔道部のコンパなどでも「ハレルヤコーラス」を歌っているそうです。

私は秋高ではブラバンの顧問

## 「全ての面で目を開け」

## 現在は北高OGなど指導

ところで先生はどんなきっかけで音楽教師の道に進まれたのですか。

小学校五年の時から合唱を始めたのですが、コンクールに出たりして音楽が好きになりました。山形県立米沢興譲館高校一年の時に山形大学に特設音楽科が出来、目標にして受験のためのレッスンを始めました。山形東高校に勉強の面で負けるなどハッパをかけられ、勉強、合唱部、レッスンと両立は大変でした。山形大学ではピアノを専攻、オーケストラ(o b)合唱など

問でしたが、長年合唱部の指導をしてきましたので、ブラバンはなかなか大変でした。強首温泉で五泊六日の強化合宿もしました。最後の晩は花火大会をしたりもしました。

甲子園には五回応援に行きました。片道約十七時間の往復でした。平成三年でしたか。夏の大会で優勝した大阪桐蔭高校と対戦した時のことは忘れられません。二点差で秋高リードの九回裏、2アウト、2ストライク、あと一球で勝

利というところでホームランを打たれ、延長十一回逆転で敗れた試合は今も「あと一球」の声と共に語り草になっている筈です。

吹奏楽部の顧問ではありましたが、長年手がけてきた合唱の指導もしたいと考えて両方の指導を試みました。受験校の故か、ほとんどが掛け持ち、腰掛け部員で定着しませんでした。それでも県の合唱祭やヴォーカルアンコンに出演しました。

今の秋高生にどんなことを望みますか。

昔から見聞きしてきた秋高生のイメージからすると優等生的でスケールが小さくなってきたのではなかろうか。政治や経済面のみならず、学問、スポーツ、芸術文化あらゆる面で目を大きく開き、外に向けて行動してほしい。目標をしっかりと定め、それに向かって進んでほしい(特に音楽を目指す人は)。

先生は現在どんな風にお過ごしでしょうか。

秋高を退職した後、秋田東高校で初任者研修、聖霊高校で音大受験生の指導などしました。今は北高音楽部OG合唱団や女声合唱団をいくつか指導しています。

# 圧巻！ 撮影用ひな壇に180人超

平成9年卒 卒業10周年記念同期会



## 卒業後初の再会

平成十九年一月二日、平成九年卒業生の卒業十周年記念同期会が、秋田ビューホテルにて開催された。

学年主任の伊勢日出男先生をはじめ、お世話になった先生方にも参加いただき、出席者は百八十名を超えた。

当初はこれほど多くの参加を得られるとは思っていなかったが、この日のために遠方から駆けつけてくれた人、忙しいスケジュールを都合してくれた人が想像以上に多く、全員が並んだ撮影用のひな壇を見上げたときは圧巻だった。卒業後初めての同期会であったが、よく顔を合わせている友人も卒業式以来の友人も、十年の隔てを感じさせることなく語り合い、予定の二時間はあつという間に過ぎていった。

これを機会に連絡を取り合うようになった仲間も多く、その後も各地で同窓会が開かれている。この日私たちは、同期の絆を深めるとともに、恩師の温かい言葉や仲間からの刺激を

つどい

得、次の十年へのスタートをきった。

### 母校の近況 写真で揭示 18年度汀友会総会

平成十八年十一月十八日秋田高校土崎地区同窓会（汀友会）総会がホテル大和で、開催された。社会長、柴田校長、仙波事務局長を含め九十二名



が参加。加賀谷会長の挨拶、社会長、柴田校長の挨拶そして母校の近況が写真で揭示された。港囃子の演奏、校友会歌と汀友会歌の斉唱をして後、久し振りの同期の二次会へと分かれた。

**伊勢法律事務所**

弁護士 伊勢 昌弘  
(昭和53年卒)

秋田市八橋本町 3-7-18  
TEL 018 (823) 0744  
FAX 018 (863) 5575

胃腸科・循環器科・皮膚科  
**港町内科皮膚科**

内科 鈴木 信愛  
皮膚科 鈴木 あけみ  
(昭和53年卒 旧姓 宇佐美)

〒011-1946 秋田市土崎港中央六丁目13-25  
TEL 018-845-1482  
予約専用電話 846-2090

**M三浦クリニック**

院長 三浦 俊一  
(昭和53年卒)

〒014-0012 大仙市幸町 4-23-2  
TEL 0187-86-3280  
FAX 0187-86-3281

# 新会長に橋本五郎氏

## 東京同窓会 60名以上が参加



秋田高校東京同窓会の定期総会が平成十九年五月二十五日(金)に例年どおり西新宿のセンチュリーハイアット東京で開催されました。

なかなかアカデミックで専門的なお話でしたが、液晶画面に映し出される脳内部の写真に皆で言葉もなく見入っていました。同窓生一同いつま

今年度は例年より少なめでしたが六十名をこす参加者で盛況でした。本部より辻同窓会長、柴田校長、仙波事務局長のご出席を頂き故郷や母校のなつかしい近況を報告して頂きました。恒例のゲストスピーカーは最近注目を集めている最新医学の話ということで、東京都神経科学総合研究所研究分野長の小柳清光氏(昭43年卒)がテーマは「脳とミネラル」。



でも健康でいたいものです。続いて事業報告や予算案承認の後、懸案の役員改選に移りました。前会長の長谷山律子さん(昭36年卒)が志半ばで病気のためお亡くなりになり渡邊三佐男さん(昭31年卒)が会長代理を務めておられましたので、今回正式に新会長の選出が課題となっておりました。

読売新聞特別編集委員の橋本五郎さん(昭40年卒)を推薦し参加者全員の大きな期待の中で拍手で承認されました。他の役員・幹事については前期よりの再任となりました。新会長を担いで役員・幹事一同大変張り切っております。今年秋には大きなイベントをやるうと計画しております。是非秋田高校同窓会のさらなる発展と飛躍のために会員各位のご協力をお願いいたします。

# 飛翔会

## 会員は9名に

昭和20年5年卒のうち、故里から旅立って、東京付近に居を構えるメンバーを糾合して作った「飛翔会」も20年を数えます。

参加者も当初の50余名から9名になりました。

(鷲谷澄夫 記)



株式会社 寒風

代表取締役社長

菅原 廣悦 (昭和43年卒)

代表取締役副社長

菅原 広二 (昭和45年卒)



Tel 018-862-3185  
Fax 018-824-6954

平岡清明 (昭和41年卒)

平岡清和 (昭和43年卒)

オフィス用品  
お届けします  
**ASKUL**

取締役会長  
後藤 (昭和43年卒)



有限会社三松堂  
本店 / 秋田市中通五丁目 7 の 8  
TEL018 - 833 - 8401(代)  
トピコ店 / TEL018 - 889 - 3583

代金は頂きません!!

来た時と施術後、  
なんら変わらない場合は...

## 加圧スポーツ整体整骨所

秋田市大町四丁目4-4 (すずらん通り3区)  
◆営業時間/朝6時~夜9時 ◆年中無休

090-4047-3066

http://kaatsu-sports.ftw.jp

豊田 成昭 (昭和43年卒、柔道部)



# 1年ぶり 校歌を斉唱

## 秋中・秋高同窓会大館支部総会



大館支部総会は暖冬とは言え風冷き二月二十二日幸町「北秋クラブ」にて辻会長・仙波事務局長をお迎えし開催。伊藤碩彦副会長（昭35卒）の開会のことばに続き布袋屋伊作会長（昭20―5卒）、ご来賓の方々よりご挨拶の後、小畑元大館市長（昭42卒）による恒例の市政報告。

記念撮影のあと榊幹雄氏（昭20―5卒）の発声にて乾杯し祝宴に入った。

在学中の思い出・近況報告のフリートーキングに入る頃は座も打ち解け、年齢・職業の壁は完全に消滅し、そこかしこで会話の輪ができた。話は尽きないものの三時間の長丁場を消化。次回は名

物「きりたんぼ」のシーズン十一月開催を全員一致で了承！

一年振りでの校歌を声高らかに斉唱し散会した。  
（幹事長 加藤 浩 記）

## 卒業六十周年への想い語る

### 昭和26年卒同期会

平成十八年十月二十日（金）協働大町ビルを会場として、平成十八年度総会が行われ小泉会長の開会の挨拶に続いて昨春秋の叙勲で瑞宝双光章を

受けた矢野浩君の慶祝を披露した後、次第により審議で会計決算の承認並びに事務報告等を経て記念写真を撮影ひとまず閉会。

懇親会に先立ち恒例とした



## 80期3Gクラス会 平成18年11月13日

やがて近づく卒業六十周年への想いをテーマに懇談を重ね約二時間に及んだ夜長も短く感じながら大団円を迎え、会員全員で校歌を斉唱し閉会となり其後来年度の再会を約し二次会会場の同ビル内魚河岸にのぞみ盛会であった同期会の幕をとじた。

アトラクションで、会員の竹谷君による矢留城にまつわる日常生活―佐竹文書（寝夜のこと）の講話から現代では知り得ない諸々を知ることが出来た。

懇親会は、恩師の寺田光和先生、関東代表山下直樹君の出席をいただき開宴となり先生からは健康の秘訣を中心としたお言葉を戴き健康の重要性を改めて認識したところでした。

続いて山下君の乾杯の音頭で献酬をかわし旧知を暖めながら相互の近況を大いに語り合い、和やかなムードに浸った。

つどい

# 母校に60万円寄付へ

## 昭和41年卒 還暦を記念、96名が参加



団塊世代の主力部隊であるわれわれもいよいよ還暦を迎えることになり、それを記念した同期会を去る六月十六日(土)に開催しました。節目の年ということ、同

期生九十三名に三名の恩師も含め総勢九十六名の賑々しさになりました。これは過去の同期会に比べると一番の出席数でした。うち県外からの出席者も二十名おりました。

つどい

合わせて還暦の記念事業として母校への寄付を募っていたのですが、目標の六十万円に達するお金が集まったことも出席者に報告できました。四十年前の思い出話しと、

第二の人生の過ごし方という現実話しと、両方飛び交った中で盛会裏にお開きまで時間を過ごすことができました。(北嶋 正記)

## 年の数ほど 回を重ねて

### 三三三会女子「花咲みの会」

三三三会女子(二十五名卒業し二名亡くなられた)の会を「花咲みの会」と名付けたのは還暦を記した平成十二年。最初は年数回だったが、今は年間計画に従って当番を決め、ほぼ毎月実施している。

山、花に詳しい人もいて木々のそよぎの中に出かけることが多い。男鹿の福寿草、鳥海山麓の湿原、八幡平大谷地、駒ヶ岳森吉山、中島台等々、合羽、長靴、ハイキングシューズが制服だ。年に一度は泊で県外の人も

山、花に詳しい人もいて木々のそよぎの中に出かけることが多い。男鹿の福寿草、鳥海山麓の湿原、八幡平大谷地、駒ヶ岳森吉山、中島台等々、合羽、長靴、ハイキングシューズ

福島県・阿多羅で



## 「つどい」の編集方針について (お知らせとお願い)

- 一、「つどい」の記事は写真を中心に、説明文はなるべく短くして下さい。
- 二、説明文や出席者名簿などの取り扱いは、編集委員会(広報委員)にお任せ下さい。
- 三、締切に間に合った原稿はできるだけ全部掲載するように努めますが、「つどい」の寄稿は毎回数が多く、編集の都合上次回に回すこともあり、夏季号は六月上旬、新年号は十一月下旬となっております。

参加して賑やかだ。十和田八幡平、白神、阿多羅、玉川……今年の一泊は筑波山を計画しているが楽しみだ。街で「お食事」は忘年会と年間計画を立てる時ぐらい、いざれ歩くのが大儀になるだろうが、街での会食はできるだけ先延ばしにしたい。(高橋絢子記・写真も)

同窓会入会式

「挑戦する精神が必要」

秋田ノーザン  
ブレッツ監督 新出康史氏が激励

さる二月二日、多数の同窓会関係者の参列を得て、平成十八年度同窓会入会式が本校体育館で行われた。最初に辻兵吉同窓会長（昭和19卒）から、「若い諸君の入会を心から歓迎し、このパワーで秋田に、そして日本に活力を与えて欲しい」との歓迎のご挨拶があった。

続いて現秋田ノーザンブレッツラグビーフットボール監督新出康史氏（昭和56卒、秋田市役所）より激励の言葉が述べられた。氏のラグビー現役二十年、監督歴十年の体験を通したお話は、極めて説得力のある内容だった。人生においては失敗を恐れず、何事にもチャレンジする精神が必要である。成功の陰には皆挫折や失敗の繰り返しがあるのだ。氏自身、省みれば、幾多の失敗や挫折を経験して多くを学び、現在がある。失敗を恐れ、困難を回避していたのでは、成功あるいは失敗という貴重な体験もできず、何も得られない。また、こ一番で自分の最高の力を発揮するために「緊張」といかに向



き合うかということにも言及された。今年度、本校ラグビー部が緊張をバネに花園で活躍したことを称え、よい緊張を作り出すためには、自分に対する自信、成功体験の蓄積、反復練習、多くの場数を踏むことが重要であると述べられた。

同窓会からの記念品（三剣菱の文鎮）は、山谷浩二同窓会副会長から、生徒代表牧野由貴さんに贈呈された。離別式では山中卓之さんから、柴田校長へ、本校の視聴覚を活用した教育の充実の一助として「プロジェクター」が贈られた。

羽城館企画展

伊藤 紘美展

十四回目の今年の羽城館特別企画展は、彫刻家の伊藤紘美氏（昭和37年卒）にご協力頂きました。ふるってご鑑賞下さるようご案内致します。

期 日 七月七日～八月三十一日  
午前十時～午後四時  
（土・日曜、祝祭日は休館）  
場 所 秋高同窓会館「羽城館」

「企画展に寄せて」  
グローバルな人間  
存在へのまなざし

画家・無所属  
佐藤 義隆

彫刻家の伊藤紘美さんが、秋田高校同窓会館羽城館で展覧会を開催することになり、秋高美術科旧職員として心から喜びたい。



伊藤紘美さんは、かつて高校教員の時代から、木彫ひとすじに生活感あふれる独特のあたたかみのある人物像・群像制作等で個性を表現してきた。そして作家としての眼は、繊細で現代彫刻の動向に敏感に反応しながらもその強い個性を持続しつつ、その表現の幅を拡大してきたように思われる。

高校教員を退職後、二〇〇五年に由利本荘市岩谷町にあつたアトリエの側に、広い空間のある「伊藤ギャラリー」を個人の資力で建設し、毎年個展を開催して、時々、地域の人々のためにコンサート等のイベントまで実現してしまう行動力には敬服せざるを得ない。

造形作家の中で自己の資金でギャラリーまでつくり、発表の場を確保している作

家はそう多くないと思われが、創作へのひたむきな姿勢と行動力が、作品の質を高め、グローバルなテーマや表現方法にも反映しているものと思われる。

最近、具象の木彫を基本として「脱出」シリーズの群像、新しいプラスチックの素材を生かした動きのある「ダンス」シリーズ、やや抽象化された「波」シリーズ、そして素描における現代の不安を繊細に表現したかのような「廃虚」シリーズ、人体素描等、作家の優れたデッサン力をうかがわせる作品群がみられるのである。

私は、ここ十数年来、「人物デッサン会」を秋田市内で伊藤紘美さん等と定期的に続けて、日本人・外国人のプロの美術モデルの人体デッサンを一緒に勉強しているが、これらの作品群の根幹には人体表現への絶えざる研鑽が生かされているように思われるのである。

多くの人々がこの展覧会を訪れ、特に秋高在校生の皆様が作品に接し、作家の心に触れて、現代における地球的規模の危機的環境問題や人間存在のあり方等について一考する縁としていただければ幸いです。

雑木林など涼やかな森にた  
たずむと、なんともいえない  
落ち着いた気分になれる。自  
然が人間の脳波や心にシンク  
ロする瞬間なのだろうが、こ  
のこの大切さを私たちは忘  
れがちである。これはあたり  
まえのことをどこかに置き忘

## 納涼随想

は嫌いな気分ではないしある  
種の心地よさを伴っている。  
樹間から遠くに雪を戴いた  
山々を眺め、さわやかな緑の  
風に吹かれながら歩くブナ林  
の道など自然が導いてくれる  
心の醸成空間である。やがて  
大空が広がる峠の一角に出る。



れた現代生活の落とし穴とで  
もいえようか。

職業柄、山と向き合う時間  
が多い私は、必然的に森や大  
空の下を思考の空間にする習  
慣が身につけている。このこ  
とは裏返せば長年かかって自  
ずから社会に適合しにくい体  
質を作り上げてしまったとい  
えなくもない。しかし、これ

## 緑陰の道

藤原 優太郎

(「あきた山の學校」代表 昭和38年卒)

そこには新しい世界が開けそ  
れまでとは別の風が吹いてい  
る。宮沢賢治は心象風景とい  
い、そこに森羅万象の世界を  
描いた。またある詩人は「峠  
はふたつの風景をとり合うと  
ころ」といい、「ひとつを失  
うことなしに新しい世界には  
入ってゆけない」といった。  
こうした状況や風景が非日常

的な日常の自身の心象風景と  
重なっている。若い頃に取り  
組んだ山の世界とはまた異な  
る次元のものだが、これが歳  
を重ねるといふことの証明な  
のかも知れない。  
山や古い峠道を歩くという  
ことを今の自分は、その場所  
や道をかけがえのない思考の  
空間と位置づけ、街や書齋で  
はなかなか浮かんできにくい  
発想の回路としている。つま  
り自分が立つ位置は山や森を  
抜きにしては考えられないと  
いうことだ。むろん仙人のよ  
うに達観したものなどではな  
く、自然のもつ大きな力や環  
境を自己の身体や脳に一時借  
りして満足を得るといふだけ  
の話ではあるのだが。  
森の梢を渡る風や谷間のせ  
せらぎは間違いなく全身が包  
まれる清涼剤であり、冷たい  
無情の風が吹きすさぶ現代社  
会とは比較のしようもない安  
心感をもたらしてくれるもの  
だ。  
高校時代からのめり込んだ  
山の世界、紅顔日に日に顧み  
思う年代になった今も、自然  
との関わり合いをわが世わが  
世の天職と思ひ、緑陰に差し  
込む太陽の光を受けながら今  
日もどこかの山や森に足を運  
ぶ日々が続いている。

## 母校に中国から留学生

唐 孟瑩さん  
タン モンイン



この四月から、約一年間の  
予定で、母校に中国からのA  
F S留学生が在籍している。  
安徽省にある

## 茶道部で 成果披露

かつて秋田  
高校の国語  
科に勤務し  
ていた柴山  
氏の元に週  
一度通って

始めて、このたびの留学につ  
ながったのだという。ただ、  
英語は中国にいた時分から勉  
強していたのであまり不自由  
しないが、日本語はほとんど  
理解できないので、日常のコ  
ミュニケーションにもまだ苦  
労が少なくない。

そこで、A F S留学生とし  
て同時期に秋田に入り、秋田  
南高校に在籍しているオース  
トラリア及び韓国からの留学  
生とともに、すでに五月から  
秋田  
高校の国語  
科に勤務し  
ていた柴山  
氏の元に週  
一度通って

う女生徒で、現在は、手形住  
吉町在住の高橋衛氏宅にホー  
ムステイし、毎日、自転車  
で  
元気に登校している。

学校では二年B組(担任・  
羽深美希子先生)に所属して、  
すべての授業に出席している  
ほか、放課後は茶道部の一員  
として課外活動にも励んでい  
る。

孟瑩さんは小学校五年生の  
時に、日中交流事業で一週間  
だけが久留米市に滞在した  
経験があり、その頃から日本  
や日本文化に興味関心をもち

この後の最大の楽しみは秋  
の修学旅行だそうで、日本の  
歴史や文化の原点となる地へ  
の旅を今から大いに期待して  
いると語ってくれた。

# 移りゆく季節

寺 田 光 和 (昭和7年卒)

バッケウドヒコヒコワラビの春の色はやもほのぼの二月の市場

二輪草は今年も連れて咲きをれど友逝きたれば一人し摘めり

庭先に固く根つきし山取りのサビタの花に紋黄蝶舞ふ

空青く山山青く湖青し青き世界に心染まりぬ

抽斗の奥より出で来亡き妻のうら若き日のセピアの写真

気に入りの手編みの下着に亡き妻の気付かぬほどのつくるひのあと

晩酌はこのぐいのみでと暮れ方に空色深き白岩焼買ふ

み年の「み」己巳の文字のいづれかと短歌に教へし師をなつかしむ

かすかなる羽音残してかぎとなり帰雁は低き雲に消えゆく

足取りのたしかならざる下山路を高山蝶の舞ひていざなふ

(千秋短歌会・ならやま短歌会主宰)

# 俳 句

こすてがは 陸前国白石付近の川なれど、近頃その名  
子拾川(悪しとて改名せらるるとかや)

阿部 菁女(旧姓 田口聰子 昭和33年卒)

引鴨のこゑ残りある子拾川

姉沼の名の優しさよはんの花

安見子は十九となりぬ桃の花

ひじき煮る出羽山伏の来さうな日

梅花藻のゆるる茂みがわが住処

子燕や床屋が朝の水つかふ

弦打ちをせよ椎の花匂ふ夜は

行々子喉の小骨がまだとれぬ

空蟬の中のくらがりがり紅楼夢

(俳句結社小熊座同人)

## 部活動紹介

夏の全国大会で個人三位になるなど、これまでの実績が認められた結果である。その後、翌十一年の夏の全国大会では、男子団体(倉川尚、進藤知巳、三浦良太)で三位。最近十年では全県大会の男子団体で平成十一年〜十三年、平成十六年〜十九年の計七度優勝しており、昨年夏の全国大会では男子団体(筒井拓弥、菅原陽太、會場健大)で五位入賞という成績を収めている。



## 全県大会でAがVBも三位

本年度の秋高将棋部は強い。5月の全県大会初日に男子団体で秋田A(筒井拓弥、菅原陽太、村上史生)が優勝、秋田B(平野祐一、杜昊、鈴木



渉)が三位となった。また、団体優勝メンバー以外が参加できる二日目の個人戦では橋本貴弘が優勝した。将棋部をリードしているのは、部内の

の全県大会でベスト8の成績を収めている。そんな彼らの強さが他の部員たちにも火をつけたのか、今年の部員全体の頑張りには目を見張るものがある。普段はもとより、大会一か月前は学校で毎日四時間練習し、家でも積極的に定跡、詰め将棋、ネット将棋等を行い、さらには年に数回の将棋部OBとの練習会を意欲的にこなすなど、確実に実力アップしている。チーム目標は、昨年の全国五位以上の成績を収めることである。

少なくなかった。しかしながら、努力が「明確な結果」の形で常に報われるとは限らない、ということを知ること。部活の重要な面であると思う。ただ「将棋」には、努力の過程で得られるものの大きさ、自分の力の限界を試す楽しみがある。努力自体を楽しく思わせるほどに、今年の将棋部は輝いている。全国出場メンバーは将棋という「真剣勝負」を楽しめるだけの「努力と実績」を持っている。最後になりますが、今後も同窓会諸氏の力強いご支援・ご協力を期待しております。

(部長・平野祐一)

# 秋高生 堂々の行進



全県総合体育大会で堂々の入場行進する秋田高校選手団

## 山岳部が団体二連覇

全県  
総体

今年度も五月二十五日(木)の陸上競技、サッカーを皮切りに全県総体が開催された。山岳部が昨年に続き団体優勝を果たした。また、硬式野球部は春季全県大会を制し、夏へ向けて好スタートを切った。

### 陸上競技

全県総体

男子1500m

田口大貴 3位 (東北出場)

4×400mR 7位

男子走高跳

佐々木孝太 1位 (東北出場)

八種競技

### バスケットボール

全県総体

男子

1回戦 秋田94-60大館工 第3位

2回戦 秋田74-56湯沢商工

3回戦 秋田135-63雄物川

女子七種競技

石川 彩貴

6位

藤井 翼

6位

### 男子単 松刈三連覇

全県総体

1回戦 秋田0-2大館鳳鳴

準々決勝 秋田73-70秋田南  
準決勝 秋田43-17能代工  
東北大会出場決定戦  
秋田60-75明 桜

女子  
1回戦 秋田60-65横手

### バレーボール

### 卓球

全県総体

男子団体 2位 (東北大会出場)

2回戦 3-0 男鹿海洋

3回戦 3-0 能代工業

4回戦 3-1 大曲

準決勝 3-0 大曲農業

決勝 1-3 秋田商業

男子ダブルス 優勝

松測健一・赤坂仁志

(インターハイ・東北大会出場)

ベスト8

渡部 潤・菊地達八

(東北大会出場)

男子シングルス

優勝 松測健一(三連覇)

3位 赤坂仁志

(上記2名 インターハイ

・東北大会出場)

ベスト16

渡部 潤、菊地達八

(東北大会出場)

### バドミントン

全県総体

男子団体

1回戦 3-0 五城目

2回戦 0-3 秋田工業

個人 シングルス

ベスト8 須藤 嶺

女子団体

1回戦 3-1 大館桂

2回戦 0-3 能代北

個人 シングルス

ベスト16 石塚佐都子

### ソフトテニス

全県総体

男子団体

2回戦 秋田3-0秋田高専

3回戦 秋田0-2大曲工

女子団体

1回戦 秋田3-1能代西

2回戦 秋田1-2大館鳳鳴

### テニス

全県総体

男子団体 ベスト4

男子シングルス

ベスト16 渡部 匠

ダブルス ベスト16

金澤 諒・三戸 瀬智久

女子団体

1回戦 秋田0-3秋田商業

女子シングルス

ベスト8 佐々木有希

### ラグビー

全県総体

2回戦 秋田64-0明 桜

準決勝 秋田12-27秋田中央

3位決定戦

秋田19-29男鹿工



医療法人 村田産婦人科医院

院長 村田 純 治 (昭和33年卒)

秋田市土崎港中央5丁目3-37  
TEL 857-4055

秋田市駅前広小路  
商店街振興組合

事務局長 佐々木 信 夫 (昭和33年卒)

〒010-0001 秋田市中通二丁目4番4号  
電 話 (018) 833-1358  
F A X (018) 833-1358

墓地分譲

曹洞宗

乗 福 寺

住職 中泉 俊 堯 (昭和33年卒)

秋田市添川字添川4  
TEL 018-868-1262  
FAX 018-868-7630



各種競技で熱戦展開

全県高校総合体育大会



①全県総体開会式で歓迎の言葉を述べる秋高・渡部健生徒会長②入場行進で校旗を保持するラグビー部主将斉藤寛人

サッカー

全県総体 ベスト8  
2回戦 秋田8-0大館  
3回戦 秋田1-0横手  
準々決勝 秋田1-2秋田工

山岳

全県総体  
優勝 秋田A 183点  
(鈴木将成・白川 駿・三浦 隆・渡邊和博)  
二連覇  
第3位 秋田B 152.5点  
(西村脩平・佐藤琢真・石川岳史・大坂隼平)

弓道

全県総体  
男子団体 予選敗退  
(40射25中)

剣道

全県総体  
男子予選リーグ 1位  
(2勝0敗)  
女子予選リーグ 2位  
(2勝1敗)  
男子決勝トーナメント  
準々決勝 ×秋田0-3明桜○  
男子個人 ベスト8 高橋 篤史  
(東北総体出場)

漕艇

全県総体  
男子シングルスカル 2位

4年ぶり11回目の優勝



春季東北高校野球大会2回戦の対日大東北高校戦で力投する佐々木俊康投手

66kg級で斎藤V

柔道

全県総体  
男子個人 予選敗退  
(40射18中)  
女子個人 予選敗退  
男子個人 予選敗退  
男子ダブルスカル 東北大会 3位  
渡辺 孝・城 健  
男子舵手付クォドルプル 3位  
(石井浩亮・鈴木広大・鎌田憲太郎 東北大会 3位  
男子ダブルスカル 3位  
渡辺 孝・城 健  
男子舵手付クォドルプル 3位  
(石井浩亮・鈴木広大・73kg級 ベスト8 二階堂 拓  
66kg級 優勝 斎藤 雄仁  
(インターハイ出場)  
個人 優勝 斎藤 雄仁  
準々決勝 秋田0-3合川  
一回戦 秋田4-0男鹿海洋  
決勝トーナメント  
秋田4-0六郷  
秋田5-0矢島

太田 翔・細井拓也・増永洋二) 東北大会

硬式野球

春季全県高等学校野球大会  
2回戦 秋田10-3平成  
(8回コールド)  
準々決勝 秋田4-3角館  
(延長10回)  
準決勝 秋田7-6秋田中央  
決勝 秋田13-3秋田商  
※四年ぶり十一回目の優勝

軟式野球

春季県大会  
1回戦 秋田2-0能代工  
準決勝 秋田0-2秋田商

秋田 通町  
**勝月**  
片谷 信一 (昭和31年卒)  
片谷 健太郎 (昭和63年卒)

不動産のことなら何でもご相談下さい。  
不動産プラザ  
**金子地所株式会社**  
秋田県知事免許 (12) 209  
〒010-0912 秋田市保戸野通町4-24  
TEL / 018-863-2761  
FAX / 018-823-2037  
E-mail / jisho@f2dion.ne.jp  
金子 敬司 (昭和63年卒)  
金子 雄司 (平成3年卒)

The Powered Suit.  
**DUALIS** 誕生  
デュアリス  
愛する人に、ONとOFF。  
デュアルライフでの生活を快適にするクルマ  
**羽後日産モーター株式会社**  
〒910-0813  
秋田市保戸野野路町13-2  
TEL: 018-824-4114  
代表取締役社長  
土肥 啓作 (昭和43年卒)

総合建設業  
**株式会社 沢木組**  
代表取締役 沢木則明 (昭和53年卒)  
常務取締役 渡部道郎 (昭和43年卒)  
本社 秋田県男鹿市船川港船川字海岸通り2-6-2  
(700-0511) TEL (0185) 23-3434(代)  
FAX (0185) 23-3333(代)  
秋田支店 秋田県秋田市寺内字イサノ35  
(7011-0901) TEL (018) 865-2311(代)  
FAX (018) 864-6469(代)

会 務 事 項 報 告

- 19年
- 2・2 同窓会入会式
- 2・19 常置委員会合同会議
- 2・22 大館支部総会
- 2・23 にかほ支部総会
- 3・1 秋田高校卒業式
- 3・6 秋田県庁支部総会
- 3・22 大潟村秋高同窓会総会
- 3・31 追分三叉路会新入生歓迎会
- 4・17 企画委員会
- 7・9 年次名簿委員会
- 7・2 羽城館特別企画展
- 7・7 理事會
- 7・15 大曲支部総会
- 6・15 鹿角支部総会
- 6・4 役員會
- 5・30 會計監査
- 5・25 秋高東京同窓会総会
- 5・23 当番年次會議
- 5・17 広報委員会
- 5・9 名簿委員会
- 4・23 財政委員会

事 務 局 だ よ り

7・20 「同窓会だより」八十一号発行

●平成18年度の会費は、各位のご協力で目標額を達成できました。ありがとうございました。

さて今年度から「払込票兼受領証」にも年度をあらかじめ印刷しております。何年度分の会費を納めたのか、確認

●平成20年秋をめざして、「同窓会名簿」の発行準備がいよいよ具体化してきました。個人情報保護に十分留意しながら進めてまいりますので、会員の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

●同窓会活動の活性化の一つの試みとして、卒業15周年の同期会にも援助することになりました。現在、幹事役の

の際にお役立て下さい。

哀 悼 (敬称略)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

18年	市川修一郎 (昭8)	佐川 秀樹 (昭48)	照井 力 (昭17)	鈴木喜久雄 (昭18)
6月	櫻庭 哲郎 (昭28)	柴田 一 (昭25)	岡田 久治 (昭20⑤)	渡辺 和雄 (昭49)
3月	福田 裕幸 (昭25)	柏木 勇夫 (昭19)	星野 徳美 (昭20④)	関 喜四郎 (旧職員)
8月	兼坂 信義 (昭7)	佐藤 光治 (昭32定)	有坂 信之 (昭37)	嶋田 嘉勝 (昭29)
9月	伊東 章允 (昭29)	湊 精一 (昭4)	佐藤 信昭 (昭20⑤)	田中 英夫 (昭27)
10月	渡辺 一博 (昭25)	桜庭 昭夫 (昭42)	青木 修一 (昭15)	藤井 正文 (昭23)
11月	赤平 榮三 (昭10)	中道 松郎 (昭20④)	山王丸日出男 (昭31)	鎌田伸一郎 (昭43)
12月	小林 敏夫 (昭32)	根岸 俊一 (昭9)	滝田 栄治 (昭22)	白井 功 (昭44)
	島田 昱郎 (昭20⑤)	鈴木 貞岡 (昭17)	高橋 久夫 (旧職員)	立木得太郎 (昭27)
	菅 恭平 (昭47)	根藤 孝志 (昭45)	杉淵 一雄 (昭7)	遠藤 雅之 (昭46)
		加賀谷 潤彦 (昭30)	高橋 元治 (昭13)	桑山 邦亨 (昭29)
		内山 和夫 (昭12)	貝塚 吉雄 (昭11)	岩田 次夫 (昭28)
		金 和穂 (昭53)	仙北屋 幸吉 (昭25)	三浦 禮三 (昭14)
		細矢 和夫 (昭32)	鍋島 正幸 (昭28)	九島 正雪 (昭32)
		大石 正雄 (旧職員)	田宮 甫 (昭31)	進藤 一雄 (昭13)
		市川 忠宏 (昭34)	山上 正浩 (平5)	神馬 暹 (昭25)
		大羽 雅直 (昭56)	江尻 久孝 (昭33)	
		吉田 仁誠 (昭16)	永井 千三 (昭19)	
		沼田 実 (昭29)	栗谷 廣 (昭11)	
			藤原 稔 (昭16)	

平 成 19 年 度 広 報 委 員

- 委員長 高島 清子 (昭33卒)
- 副委員長 大和 宇一 (昭34卒)
- 委員 田宮 忠 (昭32卒)
- 柴山 芳隆 (昭36卒)
- 寺田 和夫 (昭41卒)
- 館岡 曜子 (昭46卒)
- 石塚 政吾 (昭54卒)
- 大友 直 (昭57卒)
- 松岡 直樹 (昭61卒)
- 武内 伸文 (平2卒)
- 柘植 静子 (平4卒)

寄 贈 図 書

- 『獨楽庵切抜帖』(全6冊) 富野巳代治 (昭7卒)
- 『白菊の歌』 柴山 芳隆 (昭36卒)
- 『ピッチパイプは吹かれた』 森松 洋 (昭36卒)
- 『山の上で燃やした青春II』 秋高四〇会還暦記念誌
- 『葉の呟き』 秋田高校昭和25年卒同期会壽寿記念誌
- 『生涯青春』 加藤日出男 (昭21卒)
- 『今』の韓国』 渡部 昌平 (平2卒)

方々に呼びかけている所です。平成5年卒業生が対象です。